

## 球根ベゴニアの育て方

**分類** シュウカイドウ科ベゴニア属

南米アンデス山脈の標高1,000～4,000mに自生する7種類の球根性ベゴニアをもとに育種・改良された園芸品種を「球根ベゴニア」と呼んでいます。日本では夏の高温多湿を嫌がるため夏越しが難しく、本来の多年生植物として管理することは困難ですが、春に球根を植え初夏に美しい花を楽しむことができます。

茎が立ち上がる「スタンドタイプ」と、茎が柔らかく多数枝分かれして垂れ下がる「ハンギングタイプ」とに大別されます。

### 栽培のポイント

#### 置き場所

生育適温は15～25℃。

春から夏は朝日が当たる程度のところや、木漏れ日の当たる樹木の下で育てます。一日じゅう日が当たる場合には50～70%の日よけが必要です。雨に当たると株が傷むので注意します。

暑さを嫌がるので夏越しは困難ですが、半日陰の涼しい場所で管理すればうまくいくこともあります。

秋に日が短くなると地上部が枯れ、休眠に入ります。冬は球根を鉢土に埋めたまま凍らないように管理します。秋以降に開花させたい場合には、日没前から午後9～10時まで電灯などで明るくしている室内で育てます。

#### 球根の植え方

3月下旬～4月上旬に、市販の草花培養土あるいは赤玉土、腐葉土、パーライトを6：3：1の割合で配合した用土を用い、5号鉢に1球、球根の頂部が用土の表面と同じ高さになるくらいに浅く植えます。

#### 水やり

生育期の春から夏までは、鉢土の表面が白く乾いたらたっぷり水を与えます。

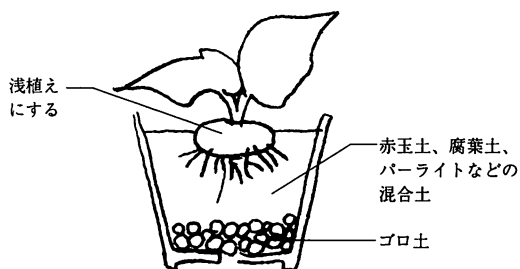
夏以降は株が弱っているので控えめにし、冬は全く与えません。

#### 肥料

元肥として緩効性肥料を与えます。春から初夏の生育期には、液肥を10日に1回程度与えます。

#### 病害虫

4～5月と9～10月にはアブラムシ、スリップスやうどんこ病、6月と9月には灰色かび病に注意し、適宜殺虫剤や殺菌剤を散布します。



球根の植え方



## エラチオールベゴニアの育て方

**分類** シュウカイドウ科ベゴニア属

「球根ベゴニア」と、アラビア海に浮かぶソコトラ諸島原産の球根性ベゴニア、ベゴニア・ソコトラーナとの交配によって作り出された園芸品種群の総称です。

真夏を除いてほぼ一年中鉢物として流通しています。最近では暑さや雨に強く花壇に植えることもできるガーデン用の品種も登場しています。

### 栽培のポイント

#### 購入のポイント

株がよく締まり、ぐらつかないもの。葉に光沢があり、花付きの良いものを選びます。

下葉が枯れ上がっていたり、葉が病害虫におかされているものは避けます。

#### 置き場所

冬は12℃以上を保ち、明るい窓辺で育てます。日ざしが強いときには葉が焼ける恐れがあるので、レースのカーテン越しに置きます。

夏はできるだけ涼しくして風通しよく管理します。

#### 水やり

鉢土の表面が白く乾いたらたっぷり水を与えます。

#### 肥料

生育旺盛で花が次々と咲き続けているときは、緩効性の固形肥料を置くか液肥を10日に1回程度与えます。

#### 植え替え

3月に行います。(用土例 赤玉土、腐葉土、パーライトを6：3：1)

#### 病害虫

病気では灰色かび病やうどんこ病が、害虫ではアブラムシが発生しやすいため、適宜殺虫剤や殺菌剤を散布します。夏には葉に水浸状の病斑が出る斑点細菌病が発生しやすく、病気の蔓延を防ぐため発病株は処分します。

#### 花がら摘み

傷んだ葉や花がらをそのままにしておくと灰色かび病が発生しやすくなるので、花卉の周辺が茶色くなり始めたら早めに摘み取ります。

### エラチオールベゴニアの管理・作業歴

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花期	開 花						開 花					
置き場	日当たりのよい室内 (12℃以上)			直射日光の当たらない 明るい室内			戸外の風通しのよい半日陰 (雨に当てない)			直射日光の当たらない 明るい室内 (12℃以上)		
水やり	やや少な目			乾いたらたっぷり与える			少な目			乾いたらたっぷり与える やや少な目		
肥 料	液体肥料を10日に1回						液体肥料を10日に1回					
病害虫の防除	灰色かび病		うどんこ病			うどんこ病			斑点細菌病		アブラムシ・ハダニ	
主な作業	切り戻し、植え替え、挿し木											

